2023年5月25日

防災通信　No.33

この通信はみなさんの防災意識を高めていただき、少しでも被害を小さく出来ることを目的に作成しています。ご意見等ありましたらおよせください。

（グリーンテラス本郷台自治会）

地域防災拠点　横浜市

「地域防災拠点」は、市内のどこか1か所で震度５強以上の地震が発生した場合に開設します。
グリーンテラス本郷台の「地域防災拠点」は公田小学校となります。

【役割】

地域防災拠点には自宅に戻れない人達が一定期間避難生活を送る「避難所」としての役割のほか、地域の被害状況の把握、備蓄資機材を使用した救出・救護活動、在宅被災者への物資や情報提供など様々な役割があります。

【運営】

地域防災拠点は、普段、自治会・町内会が中心となり、学校関係者や行政と組織する運営委員会が運営しています。実際に避難所として開設された場合は、**避難者も運営委員会に協力して運営していきます。**

また、実際に大地震が起きたことを想定し、毎年、秋を中心に地域防災拠点運営訓練を実施しています。

【防災備蓄庫】

地域防災拠点には防災備蓄庫があり、避難した住民が生活を送るために最低限必要な水・食料・救出救護用品・仮設トイレや感染防止資機材などが保管されています。

【避難所生活】

避難所生活では、公共施設のスペースを大人数で分け、設備を共有しながら過ごします。災害時は想定外の出来事の連続で、ストレス要因やトラブルのリスクなども多くなります。そのため、避難所生活への事前知識を得て対策をしておくのがとても重要です。

公田小学校への避難対象自治会・町内会は、朝日平和台自治会（270世帯）・公田ハイツ自治会（242世帯）・椎郷台町内会（77世帯）・湘南ハイツ自治会（598世帯）・桂公田町会（1308世帯）・グリーンテラス本郷台自治会（150世帯）です。　**総世帯（2645世帯）となり1世帯平均3人と仮定した場合、7935人**　が対象になります。

仮に10％の住居が倒壊したと想定してそこに居住していた住民は800人程度（1世帯3人仮定）となり、使用許可の出ている体育館・教室に何とか収まる人数ということになります。

緊急避難時に最初に使用すると考えられる物資の現状備蓄数は、**毛布（240枚）・保温用シート（150枚）・アルミブランケット（240枚）**　です。避難者全員に支給されるとは限りません。

各資料等で見かける避難訓練の避難所（体育館）では、間仕切り・個別テントが設置されていますが、地域防災拠点（公田小学校）には、ありません。ダンボールベットに関しては、５セットのみです。
要援護者等に優先的に使用されるので、誰もが使用できるものではありません。

真夏の冷房に関しては、大型サーキュレーター等があり多少涼しいかと思われます。しかし網戸等の虫対策はありません。（電源はガソリン・カセットガス発電機を使用）

暖房に関しては、学校保有の大型暖房器具2台が体育館にありますが、灯油は入っていません。灯油の保管は学校倉庫の中で、地域防災拠点運営委員の管轄外になります。「暖房設備はない」と考えてください。まだまだいろいろな問題がありますが、今回は一部の紹介になります。

○このように地域防災拠点では、最低限の支援は受けられますが、雨風をしのぐ建物が提供されているに過ぎず、そこでおこなわれる生活機能は　**被災者自身が運営していきます。**　長期化する場合は特に、周囲の人と協力する必要があることを念頭に置いておきましょう。

○避難所に住民が殺到し、個人のスペースや備品、食料などが不足する事態も想定しておくことが大切です。できるだけ被害の大きい人を優先するために、災害そのものが落ち着いたらできるだけ避難所を離れるよう求められることもあります。避難所生活の実態は想像以上に過酷で、報道されない危険や悲惨な状況が多くあります。
そのため、　**災害時に避難所以外で生活する方法も考えておくと良いでしょう。**

【在宅避難】

在宅避難とは、大きな地震が発生したとき、自宅に倒壊の危険性がない場合に、地域防災拠点（避難所）へ避難するのではなく、自宅で避難生活を送る方法です。

避難所以外に知り合い、親戚等を頼る方法もありますが、まず、各ご家庭で自宅に合った備えを検討しては、いかがでしょうか。